

### 3 5年生の実践（外国語活動）

#### (1) 単元名

She can run fast. He can sing well. (We Can!1 Unit5)  
 ～先生たちにできることを尋ねて、学校みんなにクイズを出そう～

#### (2) 単元の目標

- ・自分や第三者について、できることやできないことを進んで紹介し合おうとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・できることやできないことを尋ねたり答えたりするとともに、小文字を読むことに慣れ親しむ。  
(外国語への慣れ親しみ)
- ・言語や人、それぞれに違いやよさがあることに気付く。  
(言語や文化への気付き)

#### (3) 単元の指導計画（単元デザイン）

時	主な学習活動	コ	慣	気	単元で扱う表現、語彙
1	単元のゴールを知る。 動作を表す語や「できる」「できない」という表現が分かる。 <span style="background-color: #ffff00; display: inline-block; padding: 2px;">先生たちにできることを尋ねて、学校みんなにクイズを出そう</span>	○		○	I can ~./I can't ~. You can ~.
2	動作を表す語や「できる」「できない」を表す表現に慣れ親しむ。 I can run fast. I can't swim well.			○	I can ~. I can't ~. play/ride/skate/ski/cook/dance/run fast/
3	できることやできないことを尋ねる表現に慣れ親しむ。			○	Can you ( ) ? Yes, I can. No, I can't.
4	友達にできるかどうか尋ねたり答えたりする。	○			Can you sing well? Yes, I can./No, I can't.
5	先生にどんなことができるのかをインタビューする内容を考え、ペアで練習する。 →インタビュー活動（休み時間）	○		○	Mr.( ) Ms.( )の書き方を知る。 Can you jump high? Yes, I can./No, I can't.
6 本時	第三者を表す言い方を知り、第三者ができることやできないことを紹介する表現に慣れ親しむ。			○	He can ( ). She can ( ).
7	第三者のできることやできないことを紹介する英語表現を考える。(先生クイズ作り) 小文字を読むことに慣れ親しむ。	○	○		He can ( ).He can't ( ). She can ( ).She can't ( ). He is ( ).She is ( ).
8	クイズ大会の練習をする。グループ内で発表し合い、アドバイスをする。→クイズ大会（学び集会）	○			Who is this? Hint please. That's right.

#### (4) 研究の視点

視点1 「英語でコミュニケーションを図りたくなる必然性のある場面設定」

①学習のゴールとして「先生たちにできることを尋ねて、学校みんなにクイズを出そう」を設定した。学校の先生に「できること」「できないこと」をインタビューし、分かったことをもとに問題を作って英語で伝えようという目標を持たせ、活動への意欲付けをした。

②身近な人物とのやりとりから、自分のことを伝えたい、先生のことを知りたい、そして、自分が知ったことを伝えたいという願いを持って思考・判断を繰り返しながら、主体的にコミュニケーションを図る態度を育てていくようにした。

③ 「I can ~」から「You can ~」、そして「He(She) can ~」と段階的に表現に慣れ親しませ、伝えたい思いを自然な流れで表現できるように単元を構成した。

視点2 「英語に慣れ親しむ活動の充実」

①スモールトークの工夫

児童が関心のあるスポーツ選手を話題にし、Small Talk を行った。担任が話す英語を推測しながら聞き、簡単な質問に答える活動を行うことで、既習表現に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちを楽しみながら伝えた。

②「読むこと」から「書くこと」への指導の工夫

「He」や「She」は、身近な人や関心のある人物の写真を使いながら簡単な英語で説明をし、意味を十分に理解させた後、4 線上に正しく書き写せるよう Air writing 等の活動を行い丁寧に指導した。先生を紹介するという目的を持って書く活動に臨んだことで、児童は意欲を持って書く活動に取り組んでいた。

視点3 「評価の工夫」

①活動の途中に中間評価を行った。対話を続けるための表現を積極的に使っている児童を取り上げたり、意欲的にコミュニケーションを図っている児童を評価することで、児童は友達のよさを取り入れながら、表現を工夫するようになった。

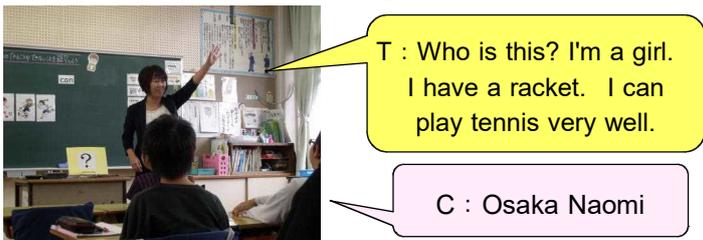
②ふり返りカードには、関心・意欲やコミュニケーションポイントについての自己評価に加え、「友だちとやりとりをして気付いたことや考えたこと」「日本語と英語を比べて気付いたこと」などの観点を与え、記述によるふり返りを行った。互いの気づきを交流し、それらを広げたり、次への活動意欲に繋げることができた。

(5) 本時の学習

① 本時の目標

第三者の言い方 He, She を知り、第三者ができることやできないことを言う表現に慣れ親しむ。

② 本時の展開 (6 / 8)

過程	学習活動	教師の支援と評価 ○教師の活動
つかむ	<p>1 Greeting &amp; Warming up あいさつをする Animals jingle</p> <p>2 Small Talk 「スポーツ選手あてクイズ」</p>  <p>3 Today's goal 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○楽しい雰囲気始めた。 Hello, everyone. How are you? ○単元のゴールを確認した。</p> <p><b>【研究の視点2】</b> スモールトークを位置付け、既習表現を推測しながら聞いたり、自分の気持ちや考えを答えたりすることで英語に慣れ親しませた。</p> <p><b>【研究の視点1】</b> 「先生を紹介するクイズを出そう」という単元のゴールに向かって、必然性のある課題設定をしたことで、児童の意欲が高まった。</p>
先生たちのできることやできないことを紹介しよう。		

<p>しつかり考える</p>	<p>4 Activity  (1) ポインティングゲーム  (2) Let's chant  (3) デスティニーゲーム</p>  <p>C : He can do kendo.</p> <p>5 Let's write  (1) Air writing  (2) インタビューシートに He か She を書く。</p>  <p>H : Let's write together.  Show me your finger.  Start here. Down down</p>	 <p>○ He.She の理解  She can play tennis well.  For girl. We say "she". She can play tennis well.</p> <p>【研究の視点2】  He や She は、関心のある人物の写真を使いながら簡単な英語で説明をし、意味を十分に理解させた。</p> <p>○ He と She の意味を確かめながら、聞いたり言ったりすることをねらいとする活動を行った。  ○ 自分がインタビューした先生は He か She のどちらを使うか考えさせて、ていねいに書かせた。</p> <p>【研究の視点2】  4 線上に正しく書き写させるために、down, up, round, stop 等の英語表現を使って Air writing を行い、丁寧に文字の書き方を指導した。</p>
<p>伝える・高める</p>	<p>6 Let's talk  先生のできることを紹介しあう。  (1) ペアで練習する。</p> <p>T : Let's practice the quiz.</p> <p>(2) 友達と伝えあう。</p> <p>C1 He can play soccer.  He can run fast.  He can't cook.  Who is this?  C2 Takada sensei?  C1 That's right.</p>  <p>C: That's right.</p> <p>T : Good job.</p> 	<p>○ ボランティアを募り、全体でやってみることで、活動の見通しを持たせた。</p> <p>【研究の視点1】  自分が聞いたことを伝えたいという願いを持って思考・判断を繰り返しながら、主体的にコミュニケーションを図る態度を育てていくようにした。</p> <p>○ 自分のインタビューカードをもとに話すようにした。コミュニケーションのポイントとして Clear voice, eye contact, reaction を意識させた。</p> <p>【研究の視点3】  中間評価では、対話を続けるための表現を積極的に使っている児童や意欲的にコミュニケーションを図っている児童を評価し、よさを広げるようにした。</p>
<p>まとめる</p>	<p>7 Looking back  「ふり回りカード」を記入し、発表する。</p>  <p>8 Ending  あいさつをする  That's all for today.  Did you enjoy today's class?  Let's finish. Thank you, everyone. See you.</p>	<p>○ 新しい表現への気づきや活動意欲について書かれたものを取り上げ、児童のよさを褒めた。</p> <p>【研究の視点3】  関心・意欲やコミュニケーションポイントについての自己評価に加え、「友だちとやり取りをして気付いたことや考えたこと」などの観点を与え、記述によるふり回りを行った。</p>